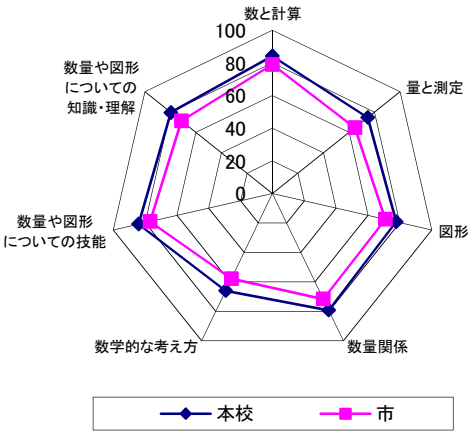


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	84.2	79.0	78.9
	量と測定	74.6	64.6	66.2
	図形	77.7	70.9	77.8
	数量関係	79.3	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	66.0	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	84.1	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	79.6	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均を5.2ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○小数のかけ算・わり算や分数のかけ算・わり算の計算問題は、おおむね正答率が90%を超えており、基礎・基本の内容が着実に身についてきている。 ●図を使って分数の除法の文章問題に会った式を選ぶ設問では、市の平均を10%以上上回っているものの、誤答が比較的多く見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数や分数の計算については、今後もドリルや補助問題プリントを活用しながら繰り返し練習することで、さらなる定着が図られるようにしていく。 ・身の回りの事象などから分数の計算を用いる場面を意図的に設定し、分数の計算の意味や有用性に触れさせることで、発展的な問題を解決する力を高めていく。
量と測定	平均正答率は市の平均を10ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○「道のり」「速さ」「時間」の関係や「面積」「体積」を求める設問で正答率が高く、学習内容の定着が図られている。 ●速さの単位を理解して分速から時速に換算する設問や、単位量あたりの値を求める式について説明する問題で、誤答が比較的多く見られる。	・単位換算に対する苦手意識がやや見られるため、日常的に身の回りの数量を数値化したり別の単位に置き換えたりする活動を数多く取り入れていく。 ・図や数直線で数量関係を表現する活動を取り入れるとともに、何が単位量に当たるかを考えさせたり単位量と求める数量の大小の関係について比較させたりする場面を設けていく。
図形	平均正答率は市の平均を6.8ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○「線対称な図形」や「点対称な図形」の定義を正しく理解しており、正しく作図をしたり適切な説明文を選択したりすることができている。 ●「円の直径をもとに円周の長さを求める式」についての設問では、市の平均をやや上回っているものの誤答が比較的多く見られる。	・具体物の操作活動を取り入れたり少人数指導やT・Tによる個に応じた指導を展開することで、目的に応じて正確に作図する力をさらに高めていく。 ・円についての学習では、「直径」「半径」「円周」の関係を再確認するとともに、実測するなど体感できる活動を数多く取り入れることで、理解をより確実なものにしていく。
数量関係	平均正答率は市の平均を7.7ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○文字を使って数量関係を式に表したりグラフから値を求めたりする設問は、おおむね正答率が90%を超えており、基礎・基本の内容が着実に身についてきている。 ●比を利用して必要な値を求める設問では、市の平均をやや上回っているものの誤答が多く見られる。	・社会科や理科などの他教科でもグラフを用いて割合から数量を求める活動を取り入れることで、グラフを活用することの有用性を感じ取れるようにしていく。 ・地図上から距離を読み取ったり顕微鏡で拡大したものの実寸を求めたりするなど比を用いる場面を意図的に設けることで、比の考え方に対する理解を深めていく。